

## 保・幼・小子育て連絡協議会のこれまでの取組

年度	概要
平成 12 年 (2000 年)	<p>協議会を通じて、保育園、幼稚園、小学校が訪問可能日を設定して、職員がお互いに訪問しあう「施設訪問研修」を実施しました。</p> <p>また、学級崩壊やいじめを、就学前におけるしつけや教育の視点から話し合う、シンポジウムを開催しました。</p>
平成 13 年 (2001 年)	<p>市民講座 講演 「幼児期からの心の教育」 昭和女子大学大学院教授 岸井 勇雄氏 シンポジウム「子どもたちのために、今私たちは・・・」</p> <p>市民講座 ビデオ上映「子どもの声に耳をすませて」 講演 「虐待防止 あなたにできること」 青山学院大学教授 庄司 順一氏</p>
平成 14 年 (2002 年)	<p>保育、教育に関わることをテーマに、市民講座を開きました。</p> <p>市民講座 講演 「テレビゲームと子どもの痴呆～ふれあい遊びが脳を育てる～」 日本大学教授・同大学院教授 森 昭雄氏 ふれあい遊び 創作遊び作家 たにぞう（谷口 國博）氏</p>
平成 15 年 (2003 年)	<p>市民講座 講演 「だれが子どもを育てるの？～家庭と地域の役割と連携～」 東京大学大学院教育学研究科教授 汐見 稔幸氏</p>
平成 16 年 (2004 年)～	保・幼・小で扱われる、子どもの問題点を共有していくことから、地域ごとのブロック単位で会議を行い、年 1 回報告会と、保育・教育に関する講演会を開催しました。（報告会・講演会資料参照）
平成 17 年 (2005 年) ～ 平成 19 年 (2007 年)	「保育園・幼稚園から小学校へ送る連携シート」について検討を進め、平成 19 年度にはシート作成プロジェクトを設置し、同年度内に実用化を実現しました。
平成 24 年 (2012 年)	保育園・幼稚園から小学校へ入学する際の円滑な接続を目指し、「ジョイントプログラム・カリキュラム」の研究を課題にし、協議会やブロック会議で話し合いました。
平成 26 年 (2014 年)	保・幼・小連携をより一層推進するため、「保・幼・小連携の日」を設定し、教職員同士の意見交流を試行実施。7 園・6 校の交流をスタートさせました。
平成 27 年 (2015 年)	「保・幼・小連携の日」の施行実施を拡大し、17 園・16 校・2 学童保育所で教職員同士の交流を行っています。
平成 28 年 (2016 年)	「保・幼・小連携の日」を、市内 51 小学校を中心とした 49 チームにおいて実施しました。

平成 29 年 (2017 年)	「保・幼・小連携の日」を、市内 69 小学校を中心とした 67 チームにおいて実施しました。
平成 30 年 (2018 年)	園や小学校・学童保育所等が相互に連携し、共通した考えをもって連携の推進に取り組めるよう、連携の基本目標を定めた「八王子市 保・幼・小連携の推進に関するガイドライン」を制定しました。
令和元年 (2019 年)	幼児教育・保育施設と小学校とのスムーズな接続のため、八王子市教育委員会が作成した、保・幼・小連携カリキュラム（八王子モデル）を普及・促進させました。
令和 2 年 (2020 年)	新型コロナウイルス感染症が発生し、第 1 回・第 3 回の協議会は中止としましたが、幼児教育・保育施設、小学校等合同による研修会の開催や、就学支援シートなど先進的な取り組みを継続して行ないました。
令和 3 年 (2021 年)	第 1 回・第 3 回の協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催としました。就学支援シートについて、役割や取り扱い方法等について再確認しました。
令和 4 年 (2022 年)	コロナ禍における新たな連携の手法として、保・幼・小連携の日や園児・生徒との交流について、ウェブ開催等の試みが見られました。
令和 5 年 (2023 年)	就学支援シートの利用促進のため、より親しみやすいネーミングとなるよう、その名称について協議会の中で検討しました。
令和 6 年 (2024 年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学支援シートの名称をすくなくシートに変更しました。</li> <li>・「すくなくシートを活用した保・幼・小連携」研修会が夏季教員研修に位置付けられました。</li> </ul>